

大学共同利用機関法人自然科学研究機構  
教育研究評議会（第52回）議事要旨

1. 日 時 平成29年6月22日（木）10：45～13：15
2. 場 所 自然科学研究機構事務局会議室
3. 出席者 小森議長、小川評議員、小間評議員、佐藤評議員、玉尾評議員、長谷川評議員、花輪評議員、村上評議員、徳田評議員、金子評議員、林評議員、山本評議員、井本評議員、川合評議員、室賀評議員、上野評議員、岡本評議員  
(陪席者)  
二宮監事、竹俣監事  
(事務担当者)  
植垣総務課長、高田企画連携課長、布野財務課長、宮内施設企画室長、国立天文台 笹川事務部長、岡崎統合事務センター 棚木事務センター長及び三好財務部長 他  
(研究成果発表者)  
東島 眞一 教授（岡崎統合バイオサイエンスセンター）
4. 配付資料
  - 1 教育研究評議会（第51回）議事要旨（案）
  - 2-1 第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価の結果について（通知）
  - 2-2 第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果
  - 2-3 中期目標の達成状況に関する評価結果
  - 2-4 学部・研究科等の研究に関する現況分析結果
  - 2-5 国立大学法人・大学共同利用機関法人の第2期中期目標期間の業務の実績に関する評価について（委員長所見）
  - 2-6 国立大学法人・大学共同利用機関法人の第2期中期目標期間の業務の実績に関する評価結果（概要）
  - 3 平成28事業年度に係る業務の実績に関する報告書
  - 4-1 平成28事業年度決算（案）のポイント
  - 4-2 財務諸表（案）
  - 4-3 事業報告書（案）
  - 4-4 決算報告書（案）
  - 4-5 監事監査報告
  - 4-6 独立監査人の監査報告書
  - 5-1 平成30年度概算要求機能強化経費事項一覧（案）
  - 5-2 平成30年度国立大学法人運営費交付金等の重点支援に係る概算要求の方向性について
  - 6 平成30年度施設整備費概算要求一覧（案）
  - 7 第6回自然科学研究機構若手研究者賞授賞式及び記念講演について
  - 8 自然科学研究機構野辺山展示室オープンセレモニー及び第11回機構長プレス懇談会について

## 5. 議事等

議事に先立ち、小森議長から評議員の交代について報告があり、引き続き、事務局から定足数及び配付資料の確認があった。

### 1) 前回議事要旨（案）について

前回教育研究評議会（第51回）議事要旨（案）（資料1）が了承された。

### 2) 第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価の結果について

金子評議員から、資料2-1から資料2-6に基づき、第2期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価の結果について報告があった。

### 3) 平成28事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

金子評議員から、資料3に基づき、平成28事業年度に係る業務の実績に関する報告書について説明があり、審議の結果、案（資料3）のとおり了承された。

（主な意見等は以下のとおり）

- 大学共同利用機関法人としてNICAやNOUSの構築は、適切であると思う。NICAについて、具体的にはどの大学が参加しているのか。
- 旧7帝大、筑波大、新潟大、富山大、愛媛大、鹿児島大が参加している。本機構では、大学を結ぶネットワーク型の共同研究を現在9件実施しており、NICAはこれらの共同研究に2件以上参加している大学を対象としている。
- NOUSの実績について、どのような状況か。
- NOUSは3年計画で構築しているところであり、現在、製作途中のため実績はまだ無いが、分野融合型の共同研究の公募については、機構長のリーダーシップにより先行して実施し、数件採択しており、来年度からの実施に向けて準備を進めている。
- NOUSの共同研究に関する機能は、今年の秋くらいから利用できると考えており、当面は本機構の共同研究を対象としていくが、将来的には他の機構の共同研究も対象とし、すべての分野の壁を超えたシステムにしていきたいと考えている。
- URAの割合がかなり多いと感じる。核融合研においては、URAから研究者になられているようだが、意識的に行っているのか。
- 核融合研では、研究者が3年程度URAとなり、その後、研究者に戻っている。URAは研究者としての知識や将来を見る眼が必要であり、研究者にとって決して無駄になるものではない。
- 多くの研究者はデータを持ち帰って仕事をするが、情報セキュリティとの兼ね合いはどのように考えているのか。
- 情報については、機密性等のレベル分けが重要と考えており、レベルごとに管理方法を変えている。共同研究者についても、本機構の研究者と同様の取扱いをする必要があり、ルールが行き渡るようにと考えている。

4) 平成28年度決算について

事務局から、資料4-1から資料4-6に基づき、平成28年度決算について説明があり、審議の結果、案(資料4-1から資料4-6)のとおり了承された。

5) 平成30年度概算要求について

事務局から、資料5-1及び資料5-2に基づき、平成30年度概算要求について説明があり、審議の結果、案(資料5-1及び資料5-2)のとおり了承された。

(主な意見等は以下のとおり)

- 人件費の増加の要因として、年俸制への移行に伴う退職手当相当額分の増加がある。年俸制に移行しなかった場合の退職金は国から予算措置されるが、移行した場合の退職手当相当額は予算措置されているのか。
- 年俸制の退職手当相当額分については、年俸制導入促進費という予算が措置されているが、全額を賄えるわけではなく一部持ち出しになっているのが現状である。
- 年俸制について、承継職員の給与から単にスライドしているだけか。それとも、優秀な方には非常に高い給与を設定することは可能としているのか。
- 給与を機構長より高く設定することも可能な規則としている。国立天文台において、著名な外国人に対して数ヶ月だけではあるが、非常に高い給与で雇用した実績がある。また、若手の研究者についても評価に対するインセンティブを導入しているが、まだ制度を運用開始して間もないため、今後見直しも含め、検討しながら進めていきたいと考えている。
- 長期的なビジョンからの新分野創成について、どのように考えているのか。
- 新分野創成センターに探査室を設置しており、そこで新たなものを探査している。

6) 平成30年度施設整備費補助金概算要求について

事務局から、資料6に基づき、平成30年度施設整備費補助金概算要求について説明があり、審議の結果、案(資料6)のとおり了承された。

7) 第6回自然科学研究機構若手研究者賞授賞式及び記念講演について

金子評議員から、資料7に基づき、第6回自然科学研究機構若手研究者賞授賞式及び記念講演について報告があった。

(主な意見等は以下のとおり)

- 一般の参加者が少ないので、さらに宣伝をしたほうがいいのではないかと。
- 今後、さらに効果的な宣伝をしていきたいと考えている。発表者には一般の方にもわかりやすいように発表をするように指導している。

8) 自然科学研究機構野辺山展示室オープンセレモニー及び第11回機構長プレス

## 懇談会について

小森議長から、資料8に基づき、自然科学研究機構野辺山展示室オープンセレモニー及び第11回機構長プレス懇談会について報告があった。

## 9) 機構の最近の研究について

本機構の最近の研究成果について、岡崎統合バイオサイエンスセンターの東島 眞一 教授から「ゼブラフィッシュを用いた、運動系神経回路動作様式の解明」と題して発表が行われ、意見交換があった。

以上